

ソーシャルワーカーは医療現場でも活躍する！ 今年度の医療福祉学外研修スタート

准教授 吉浦輪

生活支援学専攻では、医療ソーシャルワーカーの養成に力を入れています。医療ソーシャルワーカーとは、主に病院において、福祉的相談援助（退院後の生活、経済的なこと、家族関係に関わる相談など）を担う専門職です。社会福祉だけでなく、医学・医療に関する学習も重要となってきます。また医療現場の様々な課題についても、在学中からしっかりと理解しておかなければなりません。そこで本専攻では、医療現場からの、より高度な専門性への要求に応えるべく、授業を行っています。

具体的には、本学大学院福祉社会デザイン研究科の非常勤講師に、JA 長野厚生連佐久総合病院医長の藤井博之先生をお迎えし、藤井先生の企画で、各地の地域医療現場の視察する機会を設け、そこに学生も参加しています。現地では、先進的な実践を行っている現場の医師やメディカルスタッフ（医療に関わる専門職）にお話しをうかがったり、現場の方々と共同で研究会や研修会を実施したりしています。



昨年度は、足立区の柳原リハビリテーション病院、長野県佐久市の佐久総合病院、宮城県石巻市の石巻市立病院開成仮診療所、長野県諏訪市の諏訪赤十字病院、山梨県の山梨市立牧丘病院の視察を行い、学習会を開催しました。

今年度は「実践家に学ぶ当事者・援助者・援助関係の理解」というテーマを掲げ、昨年同様に様々な医療現場を訪れる予定で、第一回目のフィールドワークが6月1日に行われました。今回は、東京北区にある王子生協病院を訪問し、日本のプライマリケア／家庭医療



学を牽引する藤沼康樹先生に、家庭医療学の視座と今日の地域医療の課題についてお話しをうかがいました。学生からも数多くの質問が出され、藤沼先生には丁寧にお答えいただきました。写真は、その様子です。